



作業療法士経験者が語る 福祉用具業者からの助言！

弘田 和也氏((株)トーカイ)への取材

取材者のコメント

作業療法士(以下:OT)として、病院勤務を経て、(株)トーカイ 福祉用具業者へ転職し、ご活躍をされている弘田和也氏に取材をしました。在宅生活を送る上で、重要となる環境調整について、必要な視点などを助言していただきました。私自身、通所リハビリテーションで勤務する中で、環境調整を行うことも多々ありますが、今回取材をさせていただき、改めて自身の取り組みなどを考える機会になりました。退院支援や地域で働いている会員の方々に読んでいただきたい内容となっています。

田上 ▶ 弘田さんが転職した理由を教えてください。

弘田氏

転職するまでは地域の総合病院で4年間勤務し、入院される患者様は整形疾患が5割、脳血管疾患が3割、その他が2割程度でした。様々な疾患の方に関わる中で、私が携わった患者様が退院後にどのような生活を送っているのか、困っていることはないかなどを考え、悩むようになりました。特に在宅での環境調整の重要性を感じましたが、福祉用具の知識や経験が乏しく、スキルアップのためには、福祉用具業者への転職が一番の近道になるのではないかと思います。

田上 ▶ 業種の転職でなく、訪問や通所系サービスへの転職も考えましたか？また、業種を変えることに対しての不安はありましたか？

弘田氏

訪問や通所系サービスへの転職も悩みました。しかし、リハビリテーション(以下:リハビリ)では、関われる時間が決まっており、生活課題の解決に時間を要する方も多くいらっしゃると思います。私は、福祉用具業者として働くことで、環境設定や用具の選定など様々な知識を身に付け、他職種で検討する際に、適切な助言を行えることが、よりご利用者の生活課題解決に向けての力になれるのではないかと考えました。

業種を転職することに不安はありましたが、自分を磨く時間や、活力の兼ね合い及び今後の将来設計を考えると、早めに転職をした方が良いのではないかと思います。心機一転5年目に転職しました。

田上 ▶ OTとして働いていたことの強みを教えてください。

弘田氏

生活動作を実際に視ることで、どのような福祉用具が使いやすいのか、どの位置に設置すれば、より動作が行いやすくなるのかなど、他の職員よりも早期に状態把握ができることが強みだと感じました。

田上 ▶ 転職した時に悩んだことはありますか？

弘田氏

福祉用具の種類や特徴などの知識不足を痛感したことを一番覚えています。メーカーごとの特徴や特化している機能の違いなど、病院で勤務していた時は、備品程度しか把握ができていなかったのですが、車椅子ひとつ考えてみても、身体機能や日常生活動作のみでなく、介助者や環境などにより選択肢は多種多様です。誰一人として、同じ生活環境の方がいないように、福祉用具も同じ選択肢はないと思います。

田上 ▶ 退院前の環境調整を行う前に、リハビリテーションスタッフから知りたい情報はありますか？

弘田氏

身体機能や日常生活動作などの情報は、ケアマネジャーより、事前に書類が配布されることが多く非常に助かっています。

欲を言えば、ご利用者とご家族が、今後どのような生活を送っていきたいのか、生活目標や課題点は何があるのかをケアマネジャーや福祉用具業者へ明確に教えていただければありがたいです。また、ご家族の協力体制や介護力及び介護手段などの情報があれば、より目的に沿った適切な用具の選定ができると考えています。

現在新型コロナウイルスの影響により、退院前までご利用者と介護するご家族が面会できないことが多いと思います。在宅復帰に対する不安を抱えたまま、退院する方がおられ、昨今の一番の課題点であると感じています。

田上 ▶ 私は以前の勤務先では退院前訪問を行っていたのですが、実際に訪問すると自宅で必要な動作手段や環境設定などが異なる場合が多々あり、入院時訪問が重要であると感じていました。最後に病院や地域で働いているスタッフの方へ環境設定などについてアドバイスをお願いします。

弘田氏

私も入院時の家屋調査が大切であると考えています。退院に向けてリハビリを行う中で、入院初期に自宅環境の把握をすることで、目標設定や用具の選定も明確になると思います。ですが、業務が多忙の中で、入院時の訪問に行けないことも多々あると思います。そのような時こそ、退院時の医療・介護分野での連携が重要であり、目標設定や生活課題を明確化し、今後どのような環境調整の検討が必要であるかなど、情報共有を図ることが在宅生活を支援する上で重要であると思います。

環境調整に関しては、ご利用者やご家族へ必ずメリット・デメリットを伝えた上で、納得された内容であることが重要であり、日々意識して取り組んでいます。手すりの設置ひとつでも、予後予測に応じて、身体状況の変化が考えられる場合は、据え置き式などの貸与商品を奨め、普遍的に必要性が高い箇所には住宅改修の選択を提案しています。また、一緒に生活を送るご家族や主介護者などの意向や生活様式への配慮も必要です。特にトイレや浴室、玄関などの共有スペースは、お互いの要望の擦り合わせを行い、環境調整を行います。より良い在宅生活を送るために、ご家族や主介護者を含めた環境調整、福祉用具の選定であることを念頭に入れて、取り組んでほしいと思います。